

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	株式会社 ゆとり	事業所名	看護多機能ホーム まべちの風
所在地	(〒039-1101) 青森県八戸市尻内町字表河原 31-2		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の「家で暮らしたい」という気持ちを大切に、住み慣れた地域でできるかぎり生活できるように利用者や家族の思いを大切にしています。 ・病気や体調不良があっても安心して生活できるように、介護看護が協同で支援しています。遠方に住む家族や自宅を離れている家族に毎日の変化が伝わるようにコミュニケーションに力を入れています。 ・「地域と共に」の理念のもとに、地域の困りごとや相談にのることができる事業所づくりを続けます。 ・職員が定着し利用者家族が安心して介護が受けられるよう、働きやすい職場づくりを目指しています。
--

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 1 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 2 月 28 日	出席人数 (合計)	(15) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 事業所職員 (4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (4 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (2 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (1 人) <input type="checkbox"/> その他 (___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティング時に5分テストを実施する。(介護保険・看護小規模) ・「これだけは覚える意識」を持つ。 ・管理者以外でも相談、事業所紹介できるファイルを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能のサービスを自分の言葉で説明できるように学習した。 ・「覚えなければいけない部分」のポイントを覚えた。 ・事業所紹介ファイルの作成をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が覚えるべきものを限定し、要介護度と介護保険の申請をしているかなどを覚えるようになった。 ・パンフレットとファイルを活用し、職員も説明している。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの作成、介護サービス以外の時間を理解する。(認知症独居優先) ・研修指導者、研修内容の検討。 ・いつでもご相談くださいの心構え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能計画書に自宅で行っていることを記入、利用者のできるところを見守るように支援した。 ・電話ではどの職員も「どうしましたか?」と聞くようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅にいる時間の聞き取りから、利用者理解が深まっている。 ・普段の利用者が理解できると、自立支援に向けて援助ができることがわかった。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に関わる関係者を覚える。 ・利用者の変化を連絡できるようにコミュニケーション技術をつける。 ・介護保険内外のサービスについて、地域住民と一緒に学習できる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーから看護・介護職員に家族関係者の情報伝達をした。(必要部分のみ) ・ケアマネジャー以外も利用者家族に体調変化を知らせる連絡を積極的にした。 ・学習会はコロナ予防の為実施せず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族、他の事業所への連絡や確認ができるようになり利用者の安心につながったと感じている。 ・遠方の家族が安心できるように今後などの職員からも連絡は継続する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応策を地域住民と一緒に決める機会を持つ。 ・今後も地域住民の困ったときには話を聞き、各サービスにつなげる役割を継続する。郷土食の交流会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の意見から防災訓練の真剣みが不足している意見をいただき再度訓練を実施した。 ・地域からの相談に対応した。利用しない場合も他の事業所の紹介をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する意識低下があり、運営推進会議の意見が職員の気を引き締めた。 ・推進委員の方より、まべちの風が優しく介護している様子が伝わったと意見があり、地域の方の理解もあると感じた。
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の事業所からの意見の聞き取り、来訪者から意見を聞く機会を持つ。管理者は組織作りについて学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人と相談し組織作り、ハラスメント研修等を行った。利用者の家族には意見を聞きながら運営をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場を目指すと共に「誰にでも、いつ来ても同じく安心した介護が受けられる」事業を引き続き目指す。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の人員基準点検を実施、夜勤職員配置を法人と行政に確認した。 ・問い合わせの際にサービス内容を説明できるように自己学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の理解⇒事業所で利用できる条件だけは全員覚える ・感染症は手洗いうがい、消毒を実施して職員も休息をとる。 ・求人は常に募集する（法人に依頼） ・ヒヤリハット月20件上げ、事故を防止する 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がまべちの風にいる時間以外に目が行きにくいので、普段の様子を聞き取りしながらレクリエーションや行事は「利用者同士励ましあいながら体を動かせる機会だ」と職員が意識し盛り上げるようにした。 ・看護から今後の体調変化予測を介護に伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者には専門職として接しているという意識を持ち「自立援助」に向けた声かけや見守りも支援する。 ・本人の状態のアセスメントと家族の特徴や苦手なことをカバーできるように家族アセスメントをする。 ・観察、伝達の強化⇒理由と根拠をセットで伝える。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・配食サービス、社会福祉協議会や訪問利用サービスについて家族が分からないことの仲介に入るようにした。 ・「病気は複雑なので、職員が病院からの説明を一緒に聞いてくれると安心する」と家族から喜ばれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所と積極的に職員が連携、連絡を取る。 ・電話連絡が受けられるように、次につながる「聞き取り表」を作成しそれに沿って聞く。 ・利用者がかかわる介護保険外のサービスは職員も覚える。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員からの意見は貴重だと職員は感じていた。 ・地域包括ケアが難しい考え方ではなく「八戸に住む住民」として利用者職員一緒である。職員の親も利用したことから、安心して利用できる事業所のPRを続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや運動は地域の意見も取り入れてみる。 ・地域に年2回程度のお知らせや事業所の職員紹介表を作り顔を覚えてもらう。相談を受けたら真摯に答える。事業所や配食、使えるサービスの紹介を続ける。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活を安心して継続し、終末期または高齢になっても自宅で生活したい希望に沿って支援した。 ・家族の頑張りたい気持ちに添える介護を提供出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでもだれに言ってもよく見てもらっているいから安心すると」全家族が思ってくれるように取り組む。 	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			<p>・たくさん取り組むことがありますが、よくやっていると 思います。</p> <p>・感染症が拡大しないように地域でも取り組みを強化しましょう。</p>	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	○				<p>・今年度は職員が看護小規模多機能のサービス内容を理解することに努めた。</p> <p>・可能な限り在宅での生活が続けられるように、本人・家族と話しあっている。</p>	<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月の勉強会と看護介護技術練習、全体研修の実施。(内容：働きやすい職場づくりへの意見交換、処遇改善加算について等) ・自己評価後に法人代表と面談を行い、今後の課題について話し合った。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	○				<ul style="list-style-type: none"> ・研修が毎月のようにあり、いつ休んでいるのかと思います。頑張ってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> コロナウイルス感染症の為に、オンライン研修を中心に外部研修に参加。希望者が参加できるように勤務調整した。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や栄養などは看護や栄養士に聞いているようなので、良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		カンファレンスには各職種からの意見を伝えあいながら、支援背景にある情報が伝わるように情報提供がされている。(家族アセスメントが必要と感じ実施した)					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			委員からの聞き取りは大事だと思います。その道の専門家もいると思いますので。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・推進会議の意見表を職員で確認。地域の経験や医療栄養の専門家の意見として毎日の介護に反映している。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				状況判断が大事だと思いますが、一人に負担がかからないように分担して対応してほしいです。	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・コロナ感染症の拡大を防ぐためにも無理に出勤しないように配慮し、体調不良や保育園の休園に職員不足にならないように、話し合いで勤務変更に対応した。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				利用者家族の情報を伝えることは大切です、続けてください。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者や家族介護状況の変化がすばやく伝わるように、ホワイトボードを活用して職員の目に入る工夫をしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・実際の火事や地震の時は頭が真っ白になります。とっさの判断ができにくいので訓練しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に事業所と相談する体制を継続。また冬の期間は焦らず運転できるように、利用者家族と連絡を取り合っている。 ・不審者対策の訓練ができなかったので、来年度に組み込みたい。 ・事業所が川に近いので、台風豪雨の時は自宅にいてもらい訪問に切り替えた。 					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		<ul style="list-style-type: none"> ・9同様 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・災害緊急時の対応は、新人職員は、先輩職員に教えてもらうようにした。 ・災害緊急時の取り決めは利用者家族、身元保証人に伝えているが、感染症の対策に目が行きがちだった。新規サービス利用者の避難所の把握が不足していた。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	○				共有の為のコミュニケーションは大切です、続けてください。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族に聞き取りをしたり時間をかけて信頼を深めていくことも必要だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームや運動を考えているのが素晴らしいです。 ・パラリンピックの「ボッチャ」は利用者でもできそうです。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	○					<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・体調が悪化したり改善されたりで、状態変化と介護方法を変える必要があった。介護福祉士とケアマネジャーで検討し計画変更している。</p>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・夏の暑さや冬の寒さ、介護者の体調不良や入院のため予定変更が多かった。</p> <p>・宿泊サービスを利用せず自宅で過ごしたい利用者も多かった。</p>				<p>・連絡をいただくとこちらでも変更していいか聞きやすい。冬場はとても助かりました。</p>	
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・自宅で暮らす利用者とかかわるサービスとは、常勤職員中心になり誰でも連絡できるようにした。(電話で状況を伝える練習の強化)</p>				<p>・職員同士連携し、状況変化がわかる職員にすぐつなぐ現況でよいと思います。</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・介護職員が利用者家族から聞き取りした様子を看護に報告し、変調の早期発見ができるように働いた。ケアマネジャー看護は医療に相談するようにもした。</p>					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・介護職員から看護管理者ケアマネへ相談、報告し判断がつかないことは医療機関に相談する体制が定着している。</p>					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・状態変化がある場合は伝達しあっているが、受診後に病状がどのように変化したか、今後どう変化するか情報共有できればもっと良かった。</p>				<p>・今後の病状を知ってもらい一緒に見てもらえることに安心しています。</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				・何度も説明してもらい、すみません。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護小規模のサービスを柔軟に使えるか、実例を出しながら提案している。 ・一度では理解できない場合も多いので、何度も説明しフォローしている。 ・介護職員も送迎や訪問時に質問に答えられるようになった。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアマネジャーが作成した計画を説明、特に理解しやすい表現が無いようにわかりやすく説明、具体的な表現にしている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・看護師は自宅を訪問し、家族と一緒に処置やケアをするようにしている。不安なことはないか聞き取りしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	○				<ul style="list-style-type: none"> ・急な変更にもすぐ対処してもらっている。 ・意見が合うまで大変だと思いますが、いつも聞いてもらってありがとうございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人家族の希望の理解ができるように、何度か話し合いを重ね、迷ってもその都度思いを聞く体制で接している。 					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活継続のリスク想定を提案し、本人家族の気持ちの変化もくみ取りながら対応している。 ・認知症の利用者では本人の意向に沿わない時もあるが、尊厳や人権を考慮し何度も話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・看取りの後はスタッフさんもゆっくり休ませたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の利用者の状況変化に対応できるように、意向シートであらかじめ確認している。 ・家族ができる介護を奪わないように時期を看護・ケアマネジャーが見計らいながら経過を見守り記録している。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				・継続してほしいです。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有できている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○				・わからないことがあったときは、病院等に聞いてほしいです。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	○					<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○					<p>・今後も続けてほしいです。新しい職員さんの顔が見えると「あ、新しい人が入ったな」と思うようにしています。</p> <p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	○				・「医療」に強いアピールをしてはどうでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	○				<p>・重度の利用者も増えると思いますので、今後も対応できるようにしてほしいです。 *35～37 同様</p>	<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p> <p>✓</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	○				<p>・地域包括ケアシステムは難しいですがこうなったらいいですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				<p>・全八戸地域を対象の利用者として地域は限定していない。遠方でも送迎や訪問をしている。状態が変化し長時間の送迎や緊急の訪問に時間がかかり不安な場合は、近くの事業所を紹介している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・家族も一緒に介護したいと思っているので、助かります。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>・地域からの相談には連絡できる事業所を紹介している。受分たちも情報収集を心がけている。</p>					
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>・近隣住民への介護力の引き出しは、運営推進会議を通じて提起している。家族への情報提供は、職員がチームで勉強し検証してから適している介護方法を考え、訪問して家族に方法を伝えたり一緒に実施したりしている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・利用者の尊厳を守りながら、楽しく自宅で生活したい希望を、本人と一緒に考え計画した。</p>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・看護介護、ケアマネが24時間対応し、介護職員もいつでも相談や連絡できる体制をとった。もっと小さいことでも話せる関係性を作れるように、今後も取り組みたい。</p>	・家族としては安心してお願いしています。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価コメント記入欄	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・家族が遠方に住む利用者の一人暮らしが多く、最期まで自宅で生活させられるか不安もあるようだが、随時の対応で安心できる時間が多いと感じる利用者家族が多かった。</p>	<p>・看取りの際はお世話になりました。私たちだけでは最期まで見る決意をしたものの、休む時間も欲しいし疲れていました。途中から泊まりに切り替えて休みながら介護できたので、良かったです。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>